

『賃銀・価格および利潤』を学ぶ

第15回

四国ブロック

第14章 資本と労働との闘争とその結果

司会：『賃銀・価格および利潤』の学習も最終回です。担当するのは徳島県協の大西達紀さんです。

労働者の賃金闘争（賃労働と資本）

これまで明らかにしてきたのは、労働力が諸商品と同一扱いされ、従って物価の一般的運動を規制する法則に支配されること。賃金の一般的騰貴は一般的利潤率の低落を生むが、商品の平均的価格、それらの価値には影響しないということです。最後に起こる問題は、資本と労働とのこの絶えざる

闘争において、どの程度まで後者が成功するかということですが。

他の全ての商品と同じく労働力も、その市場価格は、長期間にはその価値に適応します。この労働力の価値は、その維持および再生産に要する必需品の価値によって決定され、この必需品の価値は、それを生産するに要する労働の分量によって規制されます。

労働力価値の特殊性（二つの要素）

この労働力の価値は二つの要素【①単に

生理的なもの、②歴史的または社会的なもの】によって決定されます。

①労働者階級は、それ自身を維持し再生産するため、その肉体的存在を永續させるために、生活および繁殖のために必要な必需品を受け取らないといけません。そのためこの価値は労働力の価値の究極の限界をなします。また労働日の長さも、窮極限界によって制限され、その限界は労働者の体力によって与えられます。②労働力の価値はどの国でも、伝統的な生活水準によって決定されます。単なる生理的生活ではなく、

## ◆特集 みんなの学習講座

人々がそこで住み育てられる社会的諸条件から生ずる一定の欲望の充足です。しかし労働力の価値に入りこむ歴史的または社会的要素は、膨張することも収縮することもありえ、生理的限界以外には消滅することもありうるのです。また反ジャコバン戦争の時代には、賃金を生理的最小限以下に引き下げ、肉体的永続に必要な残りは救貧法によって補ったとあります。

ただし、利潤の最小限を決定する法則は存在せず、その低落の窮極の限界がどこであるかは、明言できません。それは賃金の最小限は確定しうるが、その最大限は確定しえないからです。

### 資本と労働のたえずの闘争

利潤の最大限は、賃金の生理的最小限と労働日の生理的最大限度によって局限されています。その現実の程度の確定は、資本と

労働との間の絶えざる闘争によってのみ定まるのであって、資本家は常に賃金を生理的最小限に引き下げ、労働日を生理的最大限度に拡大しようとしており、労働者は常にその反対の方向に圧迫しているわけです。結果、闘争者たちとのそれぞれの力の問題に帰着します。

### 産業予備軍(相対的過剰人口)は

#### 資本蓄積のデコ

労働日の制限は、法律によらなければ確定されず、労働者と資本家間の取り極めでは得られません。政治的行動のこうした必要は、単なる経済的行動では資本の方が強いことを証明するものです。

労働力の価値の限界は、資本側での労働の需要、労働者によっての労働の供給、この需要供給に依存します。

植民地諸国では、この需要供給の法則は

労働者に有利でした。合衆国では賃金が高く、独立自営農民に転化するため、労働市場は絶えずカラになることを阻止することができませんでした。母国イギリス政府はこれを防ぐために植民地の物価を人為的に引き上げる近代植民地論に賛同したのです。

また、1849年〜1859年のイギリスにおける農業賃金の騰貴の際に、借地農業者たちは、小麦の価値を増加させることも、その市場価格を騰貴させることもできず、その下落を甘受せねばなりませんでした。しかしその後、借地農業者はあらゆる種類の機械を導入し、より科学的な方法を採用し、耕地の一部を牧場に転化。生産規模を増大させました。またその他の方法で労働の生産力を増すことにより労働に対する需要を減少させ、農業人口をふたたび相対的に過剰にさせたのです。普通の労働を相対的に過剰ならしめるこの同じ発展その

ものは、一方で熟練労働者を単純化し、その価値を減少させます。

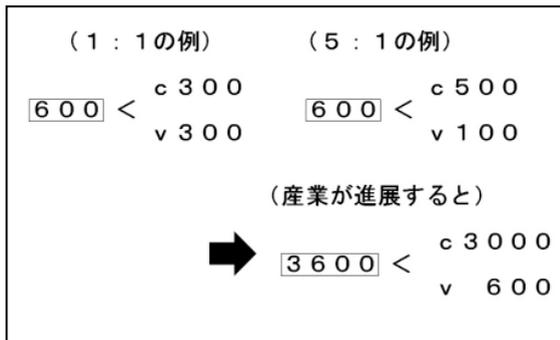
### 資本の有機的構成の高度化

#### (労働者の窮乏化)

不変資本である機械・原料・ありとあらゆる生産手段は、可変資本である賃金または労働の購買に支出される他の資本部分に比べ、生産力の発展とともに、累進的に増加します。言葉として本文には出てきていませんが「資本の有機的構成の高度化」を説明しています。

III 頁3行目からの説明は有機的構成が1対1、5対1であるときの例です(下図参照)。産業の進展に際して、労働に対する需要は資本の蓄積と歩調を同じにするものではなく、増加はするが資本の増加に比べ低減する比率で増加するということです。近代的産業の発展は、ますます労働者に不

$$\text{資本の有機的構成} = \frac{\text{不変資本}}{\text{可変資本}}$$



利で資本家に有利な状態を生みます。つまり資本制的生産の一般的傾向は、賃金の平均水準を低めること。労働の価値をその最小限に圧化することにあるのです。

### 賃金闘争の限界から賃金制度の廃止へ

マルクスは、労働者階級が不利だから、この社会の仕組みでは仕方ないといつて、資本家階級の搾取に抗することをやめればますますひどい状況に置かれるだろうと指摘し、これまでの労働者階級の賃金闘争について次の通り明らかにしました。①賃金水準のための闘争は賃金制度全体と不可分である。②賃上げの闘争は、与えられた労働の価値を維持しようとする努力に過ぎない。③労働の価格について資本家と争う必要は、自分自身を商品として売る立場に立たされた労働者の固有の任務である。その上で、もし労働者が、資本との日常闘争から逃げれば、何らかの大きな運動を起こすための彼ら自身の能力を失うと説きました。さらに、賃金制度に含まれている一般的隷属状態を度外視して、労働者階級がこれらの日常闘争の窮極の効果を誇張して考え

## ◆特集 みんなの学習講座

ることがあつてはならないと指摘します。それは、①労働者が闘つているのは、資本主義的搾取が生み出す結果とであつてこの結果の原因ではないということ。②労働者は下向運動を阻止しているのであつてその方向を変えていくのではないということ。

③彼らは緩和剤を用いているのであつて病気を治療してはいるのではないということ、です。絶えず発生してくる資本とのたたかいは、あくまでゲリラ戦であり、それだけに没頭してはいけない。労働者が理解すべきは、現在の制度は、窮乏を押し付けるにも関わらず、それと同時に、社会の経済的改造に必要な物質的諸条件および社会的諸形態をも生ぜしめるということです。つまり、現在の社会制度が労働者を苦しめる一方で、社会変革の芽が育つということです。そして、労働者は賃金闘争で掲げる「公正な一日の労働にたいする公正な一日の賃

銀！」(賃金制度のもとで状態の改善にとどまる)という保守的な標語の代わりに、「賃銀制度の廃止！」(労働力を売り買ひする賃金制度そのもの変革)という革命的なスローガンを彼らの旗に書きしるさねばならぬ。とその方向性を示しました。

### 三つの決議案

最後にウエストンが提起した問題に対して、次の決議案を提出して終わりにしました。

**第一** 賃金率の一般的騰貴は、一般的利潤率の低落を生ずるであろうが、大体において、諸商品の価格には影響しないであろう。  
**第二** 資本制の生産の一般的傾向は、賃銀の平均標準を高めないうで低めることにある。  
**第三** 労働組合は、資本の侵略にたいする抗争の中心として立派に作用する。それはその力の使用が宜しき(よ)をえなければ、部

分的に失敗する。それは現行制度の結果に對するゲリラ戦だけに専念して、それと同時に現在の制度を変化させようとしなければ、その組織された力を労働者階級の窮極的開放すなわち賃金制度の窮極的廃止のための槓桿(てき)として使用しないならば、一般的に失敗する。

### 下げ攻撃が止まない原因

NY: 当時は生産力が発展していたはずなのに、賃金がかかることはあつても値下げはあつたのでしょうか。  
大西: 本質をとらえる必要がありますね。それは何か。資本家は利潤率をいかに増やすかということを考えます。つまり資本家は投下した総資本に對してどれだけ儲けを得られたかということを見ているということです。

須藤: 図1で説明します。総資本の中身は

不変資本と可変資本です。不変資本は工場や機械（固定資本）と原材料（流動資本）、可変資本は賃金です。この投下した総資本によって生まれた剰余価値がいくらになるのかで利潤率が出されます。そして資本家はこの式で見ると分子である剰余価値をできる限り増やそうとします。そして分母の（資本投下をできる限り減らすことで利潤率を上げるのです。これまで学習してきましたが、剰余価値を上げる一番簡単な方法は生理的限界まで労働時間を増やす長時間労働と労働強化です。他の方法として、不変資本を安いものに置き換えることもありま

すが、それより簡単なのは、可変資本である労働者の賃金を生理的最小限まで下げることです。

柳本…それ以外には生産性の向上です。可変資本を減らして機械化などで不変資本の比率を増やす。この不変資本の比率を上げ

ていくことが有機的構成の高度化です。つまり利潤率を上げていく手法は長時間労働と低賃金ということです。資本主義社会は当初から労働者の賃金は下げていくことが最も有効な手段であり、その制度そのものの本質であるということなのです。

図1 利潤率の中身と利潤率を上げる手法

$$\text{利潤率 } P' = \frac{\text{剰余価値 } m \uparrow}{\text{総資本(不変資本 } c \uparrow + \text{可変資本 } v \downarrow)}$$

- I. 長時間労働・労働強化によって剰余価値を上げる(mを大きくする)
- II. 機械化・合理化によって生産性を上げる(cが多くなる)
- III. 賃銀を生理的最小限にまで下げる(vを小さくする)

### 労働者福祉の切り捨て

OC…利潤率のことですが、官公労働者ではこの仕組みはわかりにくいですよ。

HS…人事院勧告での直接的な賃下げ、現業職場の民営化、退職者不補充、非正規職員の増加、会計年度任用職員制度など、人件費総額は確実に下げられています。

YM…大きな郵便局には、昔は診療所があり医者や看護師、薬剤師もいました。売店や食堂、散髪屋もありました。あらゆる福利厚生が削られていき、今ではほとんど残っていません。少し目を向ければ公務職場でもあらゆる投下資本の減少がなされていることがわかるはずですよ。

須藤…利潤率の増加で、何より問題なのはそのあらゆる合理化攻撃に対してそれを問題と認識しない労働者が増えているということです。むしろこの資本の攻撃を擁護し、加担する労働組合があるということです。

## ◆特集 みんなの学習講座

資本の利潤追求に対して矛盾を感じない労働者づくり、たたかう労働組合を潰すというのが資本家の命題であり、連合がまさにその補助機関となっています。

KH…労働者が生活を維持していくための生活必需品の金額が下れば、労働者の賃金を下げることができます。機械合理化等によって生産力を上げることで、生活必需品の価値を下げ、それに合わせて労働者の賃金を下げる。あえて安い原材料を輸入したり、賃金も安い外国に生産拠点を置いて生産するといったようなことが当たり前に行われている現状があります。

HG…失業者がいくらでもいる状況では、低賃金でも仕事さえあれば良いという人が増えますから、賃上げ闘争はより難しくなっています。この格差が団結阻害になっており、資本の狙い通りであるといえますね。

### 歴史的・社会的要素は消滅する

OC…イングランド人の生活水準がアイランド人の生活水準に、またドイツの農民の生活水準がリヴォニアの農民の生活水準まで引き下げられると書かれています。これは国により差はあるが、全て最低水準に合わせて下げられるということでしょうか。

大西…本文では、「労働の価値に入りこむこの歴史的または社会的要素は、膨張することも収縮することもありうるのであり、また、生理的限界以外には何も残らぬほどすっかり消滅することもありうる。」とあり、国ごとの伝統や歴史によって差異はあるが、その文化的な生活は全てなくし、生理的生活部分のみの賃金水準まで下げられるということですが。

### 社会を変えることは労働者の任務

大西…今の賃金制度上で賃上げをしていく

ことはもちろんですが、制度上でのたたかいに甘んじるな。元々搾取されている部分を少し取り返すだけのものであつて、それに満足するな。最終的には賃金制度廃止をめざしてたたかわなければならないことを学びました。

司会…たたかう決意がレポーターから出されたので今講座は成功ですね。たたかいの歴史に学び、労働者の任務を再認識し、その目的が賃金制度そのものを無くすことにしなければならぬということです。労働者搾取のための賃金制度というのは資本主義社会だからこそあるものです。その廃止のたたかいというのはつまり社会を変えるたたかいであるということです。